

【1】

- 問1 違反した使用者は50万円以下の罰金に処せられ、労使が合意しても最低賃金に満たない契約は無効となり、最低賃金の契約として扱われる。
- 問2 現在の最低賃金以下で働いても構わないと考える人がいる場合、最低賃金制度がなければそうした人が優先的に雇われるため、どんどん賃金の相場が下がってしまう。
- 問3 使用者と労働者の力関係を比べると、圧倒的に使用者が強いため。
- 問4 エ
- 問5 新潟水俣病
- 問6 イ
- 問7 (1) エ (2) イ
- 問8 ウ
- 問9 オ

【2】(出題の目的)

口頭による質疑応答では測り得ない、文章構成力、並びに文章理解について測るための出題である。出題内容としては、本学アドミッションポリシーである「本学での学びに強い意識と意欲を持った人」、「様々な分野の意欲を持った人」を問う内容とする。

(模範解答)

私が「カネ」を意識したことは、高校2年の時に取り組んだボランティア活動である。ある時、私が所属していたボランティア部で、いらなくなった古着を集めて東南アジアの子どもたちに送ることになった。

高校のホームページやSNSで周知したり、チラシを配布したりして、古着募集の告知を行った結果、段ボール箱10箱近くの古着を集めることができた。輸送用の段ボールも、地域のスーパーにお願いし、無料で集めることができたが、ここで問題が起きた。私たちは、送料について深く考えていなかったのである。海外に古着を送ってくれるリサイクル業者までの配送料を調べた結果、7万円近くかかることが分かった。部費を使っても足りず、ボランティアや福祉などに力を入れている企業に協賛という形でお願いしたり、各自の家から不要な本や物を集めて、フリーマーケットやリサイクルショップに売ったりして資金を集め、何とか業者に送ることができた。このことから、ボランティアといえど活動にはお金がかかり、資金（カネ）を集めることがいかに大変かということを実感した。

この経験は、大学生活において次のように活かせると考える。まず、お金にまつわるトラブルを避けることができるという点である。お金を工面したり出資してもらうことがいかに大変かを知っているため、「楽して大金を稼ぐ」とか「100%儲かる」などという甘言には惑わされないだろうと確信している。

また、見通しや計画性を意識するようになったことも大学生活で活きるだろう。部活動では、そもそも送料をほとんど考えなかったことが苦勞の発端であった。実際の動きを想像し、シミュレーションすることは、トラブル回避の1つの方法である。これは、大学生活での様々な出来事に活かすことができると考える。このように、部活動での「カネ」の失敗は、今ではむしろ大学生活をより豊かなものにしてくれる貴重な経験として受け止めている。